

# 第2章 景観の特性と課題

1 三鷹らしい景観の特性と課題	10
(1) 自然	12
(2) 農	19
(3) 歴史・文化	23
(4) にぎわい	31
(5) コミュニティ	39
2 住区別の景観の特性と課題	44
(1) 大沢住区	44
(2) 東部住区	50
(3) 西部住区	54
(4) 井の頭住区	58
(5) 新川中原住区	62
(6) 連雀住区	66
(7) 三鷹駅周辺住区	70

## 1 三鷹らしい景観の特性と課題

三鷹の景観の構造は、5つの構成要素に分けてとらえることができます。

地形や植生がつくりだす「自然」を基盤とし、「農」の営みが育まれ、時間とともに「歴史・文化」が醸成されてきました。そこに、都市の形成に伴い、商業・産業活動などの「にぎわい」の骨格ができ、地域の「コミュニティ」が生み出されました。これら5つの構成要素が折り重なって、三鷹固有の景観が形成されています。

### 自然

自然の景観は、武蔵野台地とそこを流れる河川及び大規模な緑地で作り出されており、農のある風景と対をなし、「緑と水の公園都市」の基盤とともに都市のグリーンインフラとしての役割も担っています。

### 農

農のある風景は、大地に野菜などの畑が広がる三鷹の原風景であり、自然の景観と対をなし、「緑と水の公園都市」の基盤となり今後も大切に守っていく必要があります。

### 歴史・文化

歴史・文化の景観は、歴史のある人見街道、文学者ゆかりの山本有三記念館及び学びの場である国立天文台などで見られ、新たな資源も増えつつあります。

### にぎわい

にぎわいの景観は、都市の骨格となる幹線道路や市民センター、市民の活動の拠点となる駅前などの拠点と人々の営みや活気あふれる商店街などで見られます。

### コミュニティ

コミュニティの景観は、良好な住宅地のまち並み、地域の憩いの場及びコミュニティのシンボルやランドマークなど、人々が三鷹の原風景を感じる場所や空間により、構成されています。一方で、高齢化社会によるコミュニティへの影響も対応する必要があります。

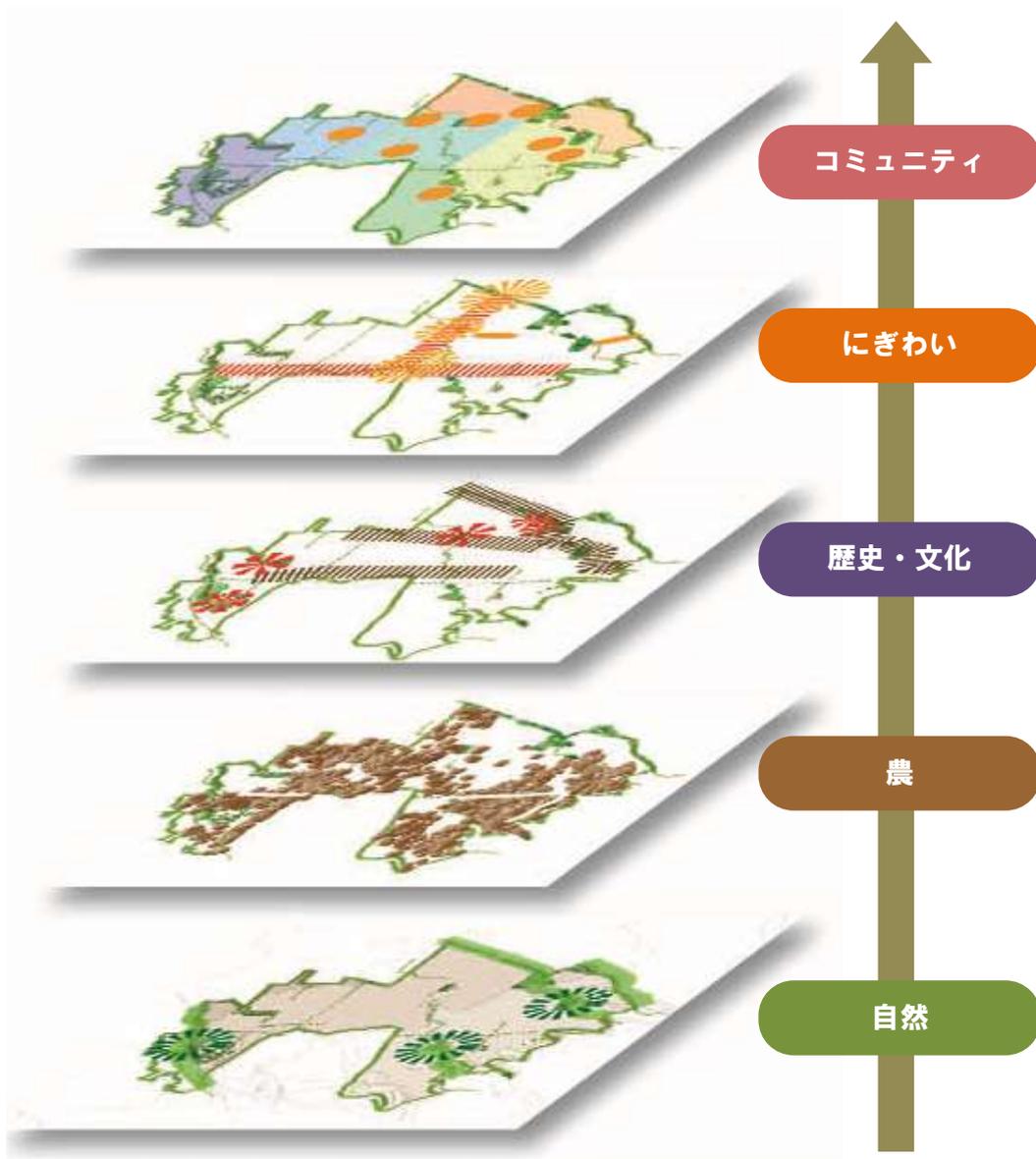


図. 三鷹の景観の構造

## (1) 自然

自然の景観は、武蔵野台地とそこを流れる河川及び大規模な緑地で作り出されており、農のある風景と対をなし、「緑と水の公園都市」の基盤となっています。

### ①自然の景観の特性

三鷹らしい自然の景観は、国分寺崖線によって分けられる立川段丘と武蔵野段丘を基礎とし、野川、仙川及び神田川などが作り出す谷、斜面、丘及び台地などの多様な表情を持つ地形と、その上に広がる豊かな植生、そしてそこに生息する生物によって構成されています。

自然の景観における「三鷹らしさ」は、これらの地形、植生及び生物が一体として見られることに象徴されます。特に、「国分寺崖線」という崖線の連なり、「野川」、「仙川」及び「神田川」などの河川、「井の頭公園」、「国立天文台」及び「国際基督教大学」などの大規模な緑地、「大沢の里」、「牟礼の里」及び「丸池の里」の3つのふれあいの里は、それぞれに異なる特徴を持ちながらも、地形、植生及び生物が一体となった三鷹らしい自然の景観を特徴付けている場所と言えます。

- 地形が作り出す景観
- 豊かな植生と生物

### 【地形が作り出す景観】

#### ◆三鷹の地形

三鷹市は、武蔵野台地の中央部南端に位置しています。西南端を流れる野川付近は、立川段丘と呼ばれ、市内で最も標高が低い場所になります。一方、市域のほとんどを占める部分は、一段高くなっており、武蔵野段丘と呼ばれ、牟礼の里付近の標高が市内の最高点となっています。この2つの段丘の間は、国分寺崖線と呼ばれる急斜面によって分けられています。



国分寺崖線の急斜面

また、市域には、北西から南東に向かった「野川」、「仙川」、「神田川」が流れており、中仙川や烏山川の源流部も、その痕跡を留めています。これらの河川は、緩やかな谷地形を形成しており、起伏のある地形は、緑と水の景観とともに河川沿いに多く見られます。

#### ◆地形が豊かな「国分寺崖線」

国分寺崖線は、多摩川が浸食して出来た高低差 10~20m の急斜面です。崖下には、現在の野川と同じ河床礫が堆積しており、この礫層が地下水の帯水層となり、地表と接する切れ目が湧水地点となっています。崖線下には、多数の湧水地点があり、野川の清流は、この豊富な湧水によるものです。

崖線上からは、富士山を望む地点もあります。

また、野川の支流で調布市深大寺から流れ込む中仙川に沿っても、国分寺崖線の一部が存在します。中仙川の崖線は、比較的緩やかですが、中原緑地などの斜面緑地が残っています。



国分寺崖線からの眺望

#### ◆国分寺崖線の豊かな湧水が流れ込む「野川」

国分寺市に端を発する野川の清流は、国分寺崖線の豊富な湧水によって形成されています。川沿いには、遊歩道が整備され、水辺の豊かな緑やカワセミ、コサギなどの様々な生き物を見ることができます。



豊かな湧水の流れ込む野川

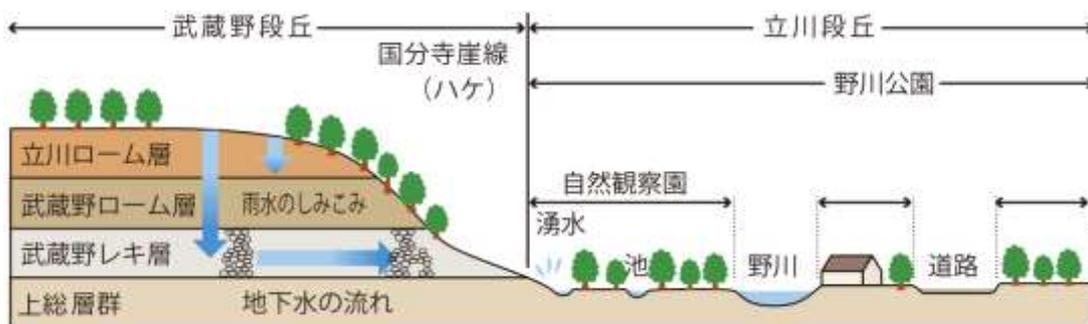


図. 崖線の断面図

◆三鷹の中央を流れる「仙川」

仙川は野川の一支流であり、市の北西部から中央部を経て南東部へと流れ、世田谷区鎌田で野川と合流しています。人見街道より上流は水量がほとんどないものの、勝淵神社付近より下流では湧水が見られ、生物も多く生息しています。



菜の花が美しい春の仙川

◆井の頭池を源流とする「神田川」

井の頭池を源流とする神田川は、多くが三面護岸となっていますが、河床には植生があり、河畔には遊歩道があります。井の頭公園駅付近には、親水空間も整備されており、連続的な自然の景観を形成しています。



神田川の河床の植生

【豊かな植生と生物】

◆豊かな植生と生物の見られる景観

市内には、農地や樹林地などのふるさとの資源あふれるふれあいの里、井の頭恩賜公園、国立天文台、国際基督教大学などの大規模な緑地及び河川と同様に緑と水の軸となっている玉川上水などで、豊かな植生と生物が見られます。



河川で見られる様々な生物

## ◆崖線の緑と野川の清流に触れる「大沢の里」

大沢の里は、野川と国分寺崖線の緑を軸に、水田や畑が広がるまとまった農空間に特徴があります。区域内には、水車など数多くの歴史的資源が存在しています。わさび田やホタルの生育を可能とするきれいな湧水が、里の大きな特徴となっています。



大沢の里で遊ぶ子どもたち

大沢の里は、まさに三鷹市における農のある風景の源であり、四季の魅力にあふれているところです。

## ◆農のある風景が保全された「牟礼の里」周辺

牟礼の里は、玉川上水の奥に広がる高台にあり、まとまりある一団の農空間から構成されています。この里の内に身を置くと、都会の雑踏から切り離され、人里の裏山にたたずむような静寂を感じることができます。



牟礼の里の緩やかな丘

牟礼の里は、時代の移り変わりとは無関係に存在し続けた、昔ながらの「三鷹のふるさと」の魅力にあふれているところです。

## ◆湧水を生かした「丸池の里」周辺

丸池の里は、仙川流域の勝淵神社、湧水池である丸池など市民生活と密接に関わりながら地区の歴史を培ってきました。しかし、昭和40年代になって湧水池が埋め立てられた結果、丸池と市民生活との結びつきが薄れようとしていました。そうした中、地



地域に愛されている丸池の里

域の多くの市民から丸池の復活を望む声上がり、平成8年に「丸池復活プランづくりワークショップ」が始まり、延べ1,000人の多くの市民が参加したこのワークショップのプランをもとに、丸池は平成12年、見事に復活しました。

丸池の里は、鎮守の森など、都市に残された故郷の自然や身近な親水空間の魅力にあふれているところです。

◆良好な緑と農とコミュニティを活かし、はぐくむ「北野の里（仮称）」

北野の里（仮称）は、屋敷林や雑木林等における豊かな植生や生物等が見られるとともに、広大な農地や北野ハピネスセンター前のケヤキ並木等が趣のある風景を形成しています。

中央ジャンクション（仮称）蓋かけ上部空間等を含む「ふれあいの里」の拠点整備では、北野情報コーナーを中心に雨庭等の雨水浸透施設による水循環の取り組みやコミュニティ農園の運営等、グリーンインフラに関連する取り組みを地域と協働して進めているところです。



北野三丁目一時開放広場



地域協働の拠点 北野情報コーナー

◆武蔵野の面影が残る「井の頭恩賜公園」

井の頭恩賜公園内には、玉川上水が流れ、武蔵野の面影を残す雑木林とともに保存されています。春は、神田川の水源でもある井の頭池を囲む桜のもと、お花見などでにぎわう景観が見られます。



井の頭池を囲む桜

◆まとまった樹林地が残る「国立天文台」  
や「国際基督教大学」

国分寺崖線上部に位置する国立天文台や国際基督教大学周辺には、まとまった樹林地が残っています。野川と天文台通りの2つの谷地形に挟まれ、「丘の鼻」と呼ばれる特徴的な地形を見ることができます。



国際基督教大学の桜並木

◆豊かな植生を育む「玉川上水」

玉川上水は、江戸時代につくられた水路ですが、上水としての役割を終えた後は、連続的に豊かな植生を育む自然をつくり出しています。



玉川上水沿いの豊かな植生

## ②自然の景観づくりの課題

### 【グリーンインフラのあり方の検討】

宅地化に伴う緑被率の減少や気候変動の影響から、都市の低炭素化や防災・減災のまちづくりの視点がより一層重要になり、地域振興、生物生息空間の場の提供とあわせてグリーンインフラの取り組みを推進する必要があります。

	平成21年度	令和5年度
緑被率	33.46%	32.20%

(出典: 三鷹市緑と水の基本計画2022.2027)

北野の里（仮称）など、緑と農と住環境の調和をめざす地域では、植物資源や農地と共生し、地域特性を生かしたグリーンインフラのあり方を検討することが求められています。

### 【自然の景観の保全】

三鷹らしい自然の景観を保全するには、地形や大規模な緑地など、良好な緑を育てていく必要があります。

斜面や丘などの地形や大規模な緑地は、三鷹らしい自然の景観をつくる大切な要素です。市民等との協働による自然の保全活動のほか、開発等による変化にあっ

ては、配慮が求められます。

#### **【周辺のまち並みとの調和】**

三鷹らしい自然の景観を守り、育てていくために、周辺のまち並みについても自然と調和した景観づくりが求められます。そのため、緑との調和に配慮した建築物の色彩や生け垣の整備など、境界線の緑化を図っていくことが必要です。

また、水辺の景観については、親水空間の整備などが考えられます。

さらに、国分寺崖線の頂部や牟礼の里、丸池の里などの高台からの眺望については、「近景」、「中景」及び「遠景」による違いをとらえた建築物の誘導により、保全していくことが求められています。

## (2) 農

農のある風景は、大地に野菜などの畑が広がる三鷹の原風景であり、自然の景観と対をなし、「緑と水の公園都市」の基盤となっています。

### ① 農のある風景の特性

三鷹らしい農のある風景は、江戸時代に開墾されて以来の営みの景観であり、近年では、都市の中での貴重な緑や地域に開かれた交流の場でもあります。三鷹らしい農のある風景は、これらが折り重なって構成されています。

また、地域ごとに異なる農のある風景が見られることも特徴です。屋敷林と一体となった牟礼地区の農地、大規模に広がる北野地区の農地及び短冊状の地割りの残る西部住区の農地など、地域ごとの特徴が見られます。

- 三鷹の原風景の面影
- まちなかでの貴重な緑
- 地域に開かれた交流の場

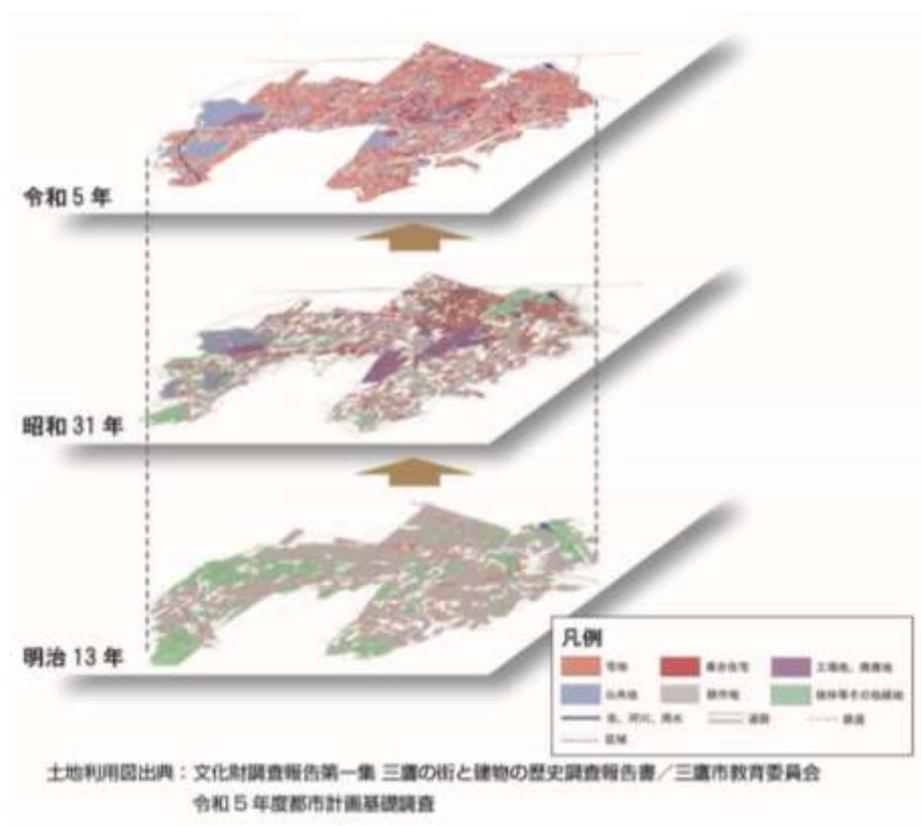
### 【三鷹の原風景の面影】

#### ◆三鷹の原風景を感じるなりわいの景観

農のある風景は、江戸の明暦の大火（1657年）で移り住んだ被災者によって新田開発がされてから続く、三鷹の原風景の一つです。現在では、地理的優位性を生かした都市型農業へと経営形態を変えていますが、これら三鷹の原風景の面影は、市内の農地の至るところで見ることができます。



三鷹の原風景を感じる景観  
(昭和7~8年/用水でカブを洗っているところ)



◆屋敷、屋敷林及び雑木林が一体となった  
牟礼地区や北野地区の農地

牟礼地区や北野地区には、農地と屋敷  
や屋敷林、雑木林と一体となった三鷹の  
原風景が残っています。



農地と北野公園の雑木林

◆大沢の水田やわさび田

大沢住区の農地は、野川の流れや国分  
寺崖線のつくり出す地形や湧水と関わり  
が深く、水田、わさび田、水車及び古  
民家などを残しています。



南北に長い短冊状の農地

◆連雀通り周辺の短冊状の地割りの農地

連雀通り周辺の農地は、江戸の開墾の  
面影として、短冊状の地割りを残してい  
ます。

### 【まちなかでの貴重な緑】

#### ◆緑地をつなぐまちなかの農地

大規模な緑地をつなぐまちなかの農地は、生物の生息環境を形成する役割や市民にとっての癒しの景観を提供する役割を担っています。

住宅地の中にも、草花やブルーベリー、キウイ等を栽培している農のある風景を見ることができます。これら、点在する小規模な農のある風景が、都市生活に憩いを提供しています。



大規模な緑地の間をつなぐ大沢の農地

### 【地域に開かれた交流の場】

#### ◆都市型農業の将来像と特徴

市内には、市民が農業を体験し、都市型農業への理解を深める場として、大沢市民農園及び井口市民農園などの市民農園が整備されています。

大沢市民農園内には、「大沢ふるさとセンター」があり、農業指導員が常駐し、農業の指導を行っています。

また、子どもたちが、農家の実地指導を受けながら体験学習をする場として、学校農園も多く整備されています。市民が農業を体験したり、営農に関わる取り組みは、都市型農業の一つの将来像を提案しています。

さらに、地域の住民と交流を深めながら、新鮮で安全な地場の農作物を販売する直売所や庭先販売は、市民生活と農業が隣接する都市型農業の特徴といえます。



大沢市民農園



まちなかで見られる直売所

## ②農のある風景づくりの課題

### 【営農環境の整備による農地の保全】

農のある風景の基本は、なりわいである農業です。しかし、相続などに伴い、農地の数は、徐々に減っています。特定生産緑地制度の推進など、営農できる環境の整備や市民の理解を深め、農地の保全を図ることが求められます。

農地面積の推移

	平成26年度	令和5年度
農地面積	161ha	141ha

(出典:三鷹市緑と水の基本計画2027)

### 【生物の生息できる環境の保全】

農地は、自然環境を補完し、生物に生息環境を提供する役割も担っています。農地の土地利用転換の際には、これら、生物の生息できる自然環境にも配慮した開発の誘導が求められます。

### 【農地と住宅地の調和と共生】

農地周辺のまち並みは市街化が進み、かつての農村的な景観ではなく、住宅などが隣接する農地も多く存在します。そのため、営農環境と住環境の両立が求められています。

農地と住宅地との共生を図るため、災害時のオープンスペースとしての機能や身近な自然としての機能などを維持し、交流の場づくりなど、地域に開かれた環境をつくっていくことが求められます。

### (3) 歴史・文化

歴史・文化の景観は、歴史のある人見街道、文学者ゆかりの山本有三記念館及び学びの場である国立天文台などで見られます。

#### ①歴史・文化の景観の特性

三鷹らしい歴史の景観は、人見街道や連雀通りなどの街道周辺で見られます。また、市内に点在する歴史的建造物や史跡でも見られます。さらに、盛大に行われる八幡大神社祭の神輿巡業や各地域の祭礼などでも見られます。

文学者ゆかりの景観は、太宰治や山本有三などの著名な文学者が住まい、好んだ景観や作品に描かれた情景があげられます。

学びと芸術の景観は、国立天文台や国際基督教大学などの学びの場と研究施設や市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館）などで見られます。

- ・ 歴史を感じる景観
- ・ 文学者ゆかりの景観
- ・ 学びと芸術の発信地

#### 【歴史を感じる景観】

##### ◆歴史の面影を感じる街道筋

三鷹のまちの発展は、人見街道と連雀通りからはじまりました。

人見街道は、江戸と甲斐国（山梨県）をつなぐために江戸幕府が整備した甲州街道の裏道として、府中へ抜ける近道となっていました。

連雀通りは、「小金井街道」などとも呼ばれ、井口地区から上連雀地区、下連雀地区、牟礼地区へと続く江戸の往還で、江戸時代には、通りを中心とした連雀村の開村が行われました。



屋敷林の面影を残す  
人見街道のケヤキ並木

このほかにも「井の頭弁財天参道」、「深大寺の古道」、「深大寺街道」及び「大沢野川沿いの道」など、江戸時代の道が現在も残っています。

これらの街道筋には、屋敷林や社寺などの昔の面影を感じる景観資源を今も見ることができます。

◆受け継がれる伝統的なお囃子や神輿巡業

八幡大神社の八幡大神社大祭は、毎年9月に行われます。多くの商店会も参加する神輿巡業は、三鷹の「風物詩」となっています。

また、「牟礼神明社（牟礼）」、「天神社（新川）」、「勝淵神社（新川）」、「中嶋神社（中原）」、「井口八幡神社（井口）」及び「大沢八幡神社（大沢）」等でも伝統的なお囃子や神輿巡業が行われています。



地域で大切にされている祭礼の日の景観



新川天神社

◆文化財や史跡

市内には、鷹場標石などの史跡や大盛寺境内にある石燈籠、玉川上水などの文化財が、その姿を残しています。

玉川上水は、上水としての役割は終えましたが、当時の土木技術を伝えるとともに、連続的で豊かな緑と植生を育てています。

また、品川用水跡（現：さくら通り）や砂川用水（現：井口コミュニティ・センター東側道路）なども、まちの成り立ちを伝える貴重な資源として、面影を留めています。



大盛寺



万助橋付近の玉川上水

### 【文学者ゆかりの景観】

#### ◆文学者ゆかりの建物

多くの文学者を育んだ三鷹市ですが、特に玉川上水や井の頭公園の周辺では、「山本有三記念館」や「みたか井心亭」「吉村昭書斎」など、文学者ゆかりの多くの建物に出会うことができます。

また、山本有三の「生きとし生けるもの」や太宰治の「ヴィヨンの妻」など、多くの文学作品に登場する井の頭恩賜公園や「乞食学生」に登場する玉川上水など、文学作品に描かれた情景も数多くあります。



大正末期の洋風建築山本有三記念館



吉村昭書斎と交流棟

### 【学びと芸術の発信地】

#### ◆文化の発信地となっている大学・研究施設や美術館

市内には、国立天文台や国際基督教大学をはじめとした多くの大学・研究施設や美術館が立地し、文化の発信地となっています。

また、それぞれが歴史ある特徴的な建築物であるものが多く、周辺を緑に囲まれ、風格と落ち着きを備えた歴史・文化の景観をつくりだしています。



国立天文台の構内（出典：国立天文台）

## ②歴史・文化の景観づくりの課題

### 【面影を感じるまち並みの形成】

街道や用水跡などは、まちの成り立ちを知るうえで貴重な資源であるとともに、まちの特徴でもあります。貴重な面影を大事に守り、生かすことに加え、面影の再

生も検討する必要があります。

### 【歴史・文化の景観のネットワーク化】

三鷹駅前に集積する文学者ゆかりの地や美術館、主に大沢住区に集積する歴史的建造物を回遊できるよう、ネットワーク化することが求められています。景観づくりの観点からは、これらの観光ルート上において歴史・文化の景観と周辺のまち並みとの調和を図ることが求められます。

### 【歴史ある景観資源の保全】

三鷹こ線人道橋の事例のように、老朽化や土地利用の転換に伴う施設の解体が今後増えることが想定されます。解体にあたっては、可能な限り一部保存などの措置を行い、歴史ある景観資源を永く地域の文化的資源として活用できるよう所有者等の理解や協力を得る必要があります。

#### ◇三鷹の古道

##### 中世の古道

中世の古道において、一般的に南北に走る道路は、“鎌倉街道”と一括称されています。しかし、戦国末期には、牟礼の砦、天神山城、島屋敷及び深大寺城など、地方豪族の城館等が設けられ、古道はこれらの城館を結ぶ道として、存在していました。

また、昭和30年に建設された井口大鷲神社由緒の碑には、『前方南北二通スル道路ハ旧鎌倉街道ト伝フ』（みたかの石造物・三鷹市教育委員会発行）、と刻まれています。これは、この南北の道は、現在の武蔵境通りで深大寺へ通ずる古道であったと伝えられ、これを鎌倉街道と称していたことを後世に残そうと碑に残したものです。

また、『鎌倉街道・東京編』（阿部正道著）には、三鷹市新川船舶技術研究所（現：国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所）から消防研究所（現：総務省消防庁消防大学校消防研究センター）構内に鎌倉街道の一部が残っていると書かれており、この道は、武蔵野から調布深大寺へ通じている道と言われています。

##### 近世、近代の道

三鷹地域の中の主要街道には、連雀通りと人見街道の2本があります。

「新編武蔵風土記稿」によると、人見街道は、“甲州街道の裏道にして則江戸への往来なり”と記載され、また、下連雀村、上連雀村を東西に通過する道路は、“連雀通り”と記録されています。

人見街道は、甲州街道高井戸から久我牟礼を通り、更に、現在の牟礼コミュニティ・センターの前を通り、新川、市役所から野崎、大沢を通過して府中市浅間町戸時代の人見村)に通じ、再び甲州街道流する道です。人見村に通ずるといことから、“人見街道”と名付けられました。“中野通り”や“甲州裏通り”とも称します。さらに、『三鷹の民俗』の中で、大は、人見街道は中野通りや府中街道とも呼ばれたと記されています。また、人見街道のアイノミチと呼ばれる裏道が、現在も新川に見られます。



山、  
テ  
前か  
(江  
合  
とか  
が、  
され  
沢で

また、もう一つの主要街道である連雀通りにおいて、江戸期に通りを軸とした連雀村の開村が行われました。その連雀村の延長上に上連雀村や井口新田が形成されていきました。連雀通りは井口新田～上連雀～下連雀～牟礼へと続く江戸往還で、三鷹の江戸期の代表的な道路です。現在も『連雀通り』と呼ばれますが、ほかにも小金井街道、久我山街道とも呼ばれています。

そのほかにも井の頭弁財天参道、深大寺の古道、深大寺街道、北野の道及び大沢野川沿いの道が残っています。

井の頭弁財天参道は、牟礼上町々会の三叉路のある地藏石塔に井の頭弁財天とあり、これより先は、井の頭弁財天参道であったことがよめます。この道は、井の頭の弁財天『黒門』のところから右へ曲り、井の頭弁財天へと通じます。

深大寺の古道は、井口の天文台通りから南へ斜めに入って右へ折れ、御嶽神社前を通り、曾根方面に通ずる道で、江戸時代新田開発を行った家々が集まる“居村”の中央を貫通している道路で特に名称はありません。江戸期につくられた道です。

深大寺街道は、中仙川庚申塚から東へ中原小学校の南を通り、苦楽院庚申塚を通過して、深大寺へ通ずる道です。

北野の道は、新川天神東隣りから北野小学校北側を東へ、北野ハピネスセンターへ竹やぶの中を通っていた道で、地元の人が境道と呼んでいた道です。北野の庚申塚の2軒と烏山飛地の境ということから、この呼び名が生まれたと言います。北野小学校東側から南へ北野地区公会堂までの道は、特に名前はありませんが、かつては、昭和30年代終わり頃には畦道のような状態でした。

大沢野川沿いの道は、相曽裏から野川沿いに古八幡、更に東に羽沢下を通り、御塔坂、更に深大寺の南斜面を下ります。この道は、名もありませんが、大沢開村と同時にできたものといえます。古八幡のL形字路など、現在も古道の面影を残しています。人見街道より古い道です。

参考：三鷹市史 補・資料編

◇三鷹の地名



下連雀

下連雀の開村は、350年前に遡ります。明暦3年(1657)1月に起きた江戸の明暦大火(別名:振り袖火事)で、幕府の命令により、江戸神田連雀町の被災者の替え地として、万治元年(1658)に“連雀新田”として開墾されたことから始まりました。連雀の名称は、江戸神田連雀町の住民の開墾した土地ということに由来します。

上・下連雀の“上”・“下”は、京都(朝廷)に近い方を“上”と称し、江戸方に近い方を“下”と称したことによるもので、その他の地域でも上宿、下宿などの名称は同様です。

牟礼

牟礼は、三鷹地域では古く成立した村の一つで、戦国末期に高橋綱種が現在の神明社のある地に陣を張り、深大寺城と攻防を展開した後、この地に土着して、開村したと伝えられています。“牟礼”の由来は明らかではありませんが、特に、九州、西日本に多く見られ、7世紀頃に渡来した氏が住む地域の名につけられた例が多く、小高い丘陵を指した名であるという説があるようですが、定説はありません。

### 井の頭

井の頭の名は、江戸時代、徳川家光が鷹狩りにこの地に立ち寄り、湧水がほとばしるように出ているのを見て、“井の頭”と命名されたと伝えられています。井の頭は、こうした江戸時代から、江戸市民の行楽地として親しまれてきた井の頭池(公園)を中心とした住宅地域で、昭和40年2月1日、それまでの牟礼から独立し、「井の頭一丁目～五丁目」として、住居表示を実施した地域です。

### 新川

新川は、明治7年(1872)に上仙川村と野川村が合併して誕生したいわゆる“明治新村”です。

旧上仙川村は、新川団地(現：新川・島屋敷通り団地)の辺りで、「新編武蔵風土紀稿」には、天正年間(1573～92)には金子弾正が居を構えていたと記され、その後、柴田左衛門がこの地(島屋敷)を知行地として治めていたとも記されています。

旧野川村は、現在の新川十字路中心に人見街道を東西に広げた地域で、土地の人が通常、新川といっている地域です。

### 北野

北野は、寛文年間(1661～72)に下仙川村の村民が開発した地域で、その頃は、“原仙川村”と称していたと言われ、元禄8年(1695)の元禄検地を行った頃、“北野村”として一村をなしたと「稿」には記されています。更に、その「稿」には、北野の由来について、“もとよりここは下仙川村の北にあたり、但原野打続きたる処なれば、ただちに村をば北野とは名付たり”と記しています。

### 中仙川(中原)

中仙川の沿革は、はっきりしたことは不明ですが、戦国末期から江戸初期にかけて存在したと推測される武家屋敷跡(麻生屋敷)が発掘(昭和50年8月発掘)されており、中仙川村を開いたとの説があります。中仙川村の名は、仙川に由来して、上仙川の南に位置した地域で、上、中、下3村の一つとして名づけられたものと思われます。また、中原は三鷹市大字中仙川を構成する小字の一つで、小字廃止のときに中原となったと言われています。

### 上連雀

上連雀は、寛文年間(1661～72)に進められた武蔵野新田開発の一つとして開発された地域で、練馬村(現・石神井)名主の井口権三郎により「連雀前新田」として開発された地域です。寛文12年(1672)には連雀前新田として検地を行っています(「三鷹市史」)。その後、享保12年(1727)には、先行して開村した連雀新田に“下連雀村”の名が見られることから、この頃、連雀新田から上連雀村に改称し、一村をなしていたと見られます。

### 井口

井口は江戸中期、上連雀村を開発した井口権三郎が上連雀村に続いて新田開発した地域で、おそらく享保年間(1716~35)頃の開発による武蔵野新田の一つと思われ、元文元年(1736)に検地を行っています。井口新田の名は、開発を行った井口の姓を付けられたものと言われています。

### 深大寺

深大寺は、井口と野崎の間に挟まれた地域で、江戸時代、井口新田の開発と同年代(享保年間)に武蔵野新田の一つとして開発された地域で、元文元年(1736)に検地を行っています。名刹深大寺のある深大寺村の飛地として開発された地域であることから、本村の続き番地の3000番台から4000番台にわたって番地がつけられていました。

### 野崎

野崎の名の由来については、定かではありませんが、「村誌」(渡邊萬助著)に若干記述が見られます。要は、平安時代の武士団の野与党の子孫の野崎光員が、多摩郡野崎を領したことから野崎と称するようになったと記しています。真偽の程は別として、武士団の子孫の支配領となったことから、野崎の名が村名になったようです。

### 大沢

大沢のはじまりは、牟礼、中仙川などとともに、江戸初期に遡るものと推測されます。箕輪家文書の「大沢村諸家系図」によれば、箕輪家ほか19家(箕輪家分家)の姓が見られ、箕輪将監のこの地への定住以降、これらの家々が何らかのつながりで初期の大沢村の基礎を築いていったものと解せられます。開村時期ははっきりしませんが、長久寺創建の慶長2~3年(1597~8)以前と思われる。

参考：三鷹市史 補・資料編

## (4) にぎわい

にぎわいの景観は、都市の骨格となる幹線道路や市民センターなどの拠点と人々の営みや活気あふれる商店街などで見られます。

### ①にぎわいの景観の特性

三鷹らしいにぎわいの景観は、都市の骨格となっている幹線道路と三鷹駅前地区や市民センターなどの都市の拠点を基盤としています。

特に商業の集積が見られる三鷹駅前地区は、市の「玄関口」として重要です。

また、連雀通りや三鷹台駅前通りなどに展開する路線型の商店街では、にぎわいの景観が見られます。

さらに、下連雀・牟礼地区の準工業地域周辺では、ものづくりと住宅が共存する景観が見られます。

- 都市の骨格と拠点
- 三鷹市の「玄関口」である三鷹駅前地区
- 商店街のにぎわい
- ものづくりの環境と住宅地の共存

### 【都市の骨格と拠点】

#### ◆都市軸で形成されている景観

三鷹の中央都市軸は、三鷹駅から市民センターまでの南北の一带で、三鷹通りとそれに並行している中央通り、コミュニティ道路からなります。三鷹駅前地区では、中央通りを中心として、回遊性のある商業地域が形成されています。

東西都市軸は、東八道路と人見街道の一带です。東八道路は、広幅員の歩道に街路樹が整備され、緑を感じる幹線道路となっています。

都市軸を補完する「サブ都市軸」には、吉祥寺通り、天文台通り、武蔵境通り（以下、本計画内の「武蔵境通り」には新武蔵境通りも含む。）及び連雀通りが指定されています。それぞれに街路樹が整備され、都市計画道路の整備に合わせて無電柱化を進められており、都市的な景観を形成しています。

◆桜並木が美しい三鷹通り

市民センター付近の三鷹通りは、桜並木が街路を覆い、アーチ状の景観を形成しています。連雀通りとの交差点付近は、湾曲しており、旧道との分岐点があります。



三鷹通りの桜並木

◆三鷹駅前地区の商業地の中心を通る中央通り

中央通りは、三鷹駅前地区の目抜き通りです。中心商業地の南北軸であり、にぎわいの景観が続いています。



中央通りの商店街

◆街路樹の緑豊かな広幅員の東八道路

東西都市軸である東八道路は、地区ごとに沿道の土地利用に特性がみられる広い歩道と街路樹が整備されています。

「東八道路沿道における景観ガイドライン」に基づき、市の骨格となる連続した緑とにぎわいを感じさせる三鷹らしい景観づくりを進めています。



緑とにぎわいのある東八道路

◆マンション建設が進む三鷹通り、吉祥寺通り

三鷹通り、吉祥寺通りは、JR 駅へのアクセスの良さから、マンションの建設が進んでおり、公開空地などにより、沿道はゆとりある景観を形成しています。



大規模なマンションの建つ吉祥寺通り

◆大規模緑地と接する天文台通り

天文台通りは街路樹が整備され、特に国立天文台付近では、豊かな地形と相まって、緑を感じる街路となっています。



谷線を通る天文台通り

◆整備が進められている武蔵境通り

武蔵境通りは、東京都において、緑豊かな都市空間のネットワークをつくる環境軸のモデル地区として紹介されています。歴史と森をめぐる回遊路として、環境施設帯の整備が行われています。



拡幅整備された武蔵境通り

◆道路交通の玄関口としての東八道路 IC（仮称）

北野地域において工事が進んでいる東京外かく環状道路東八道路 IC（仮称）は、三鷹市における道路交通の新たな玄関口の役割を担います。

中央ジャンクション（仮称）においては、新たに築造される土木構造物と緑が調和した景観形成が期待されます。

◆都市軸上の拠点となる公益施設の集積

市民センターは、中央都市軸と東西都市軸が交わる場所に位置し、公益施設の集積と整備を通じた先導的な景観づくりが進められています。



市民センター

### 【三鷹市の「玄関口」である三鷹駅前地区】

#### ◆三鷹駅前地区の景観づくりの方向性

三鷹市の「玄関口」である三鷹駅前地区は、商業の中心を担っています。

令和4年度に策定された「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」では、5つの視点として「安全・安心」、「にぎわい」、「緑化」、「道路・交通」、「文化」を掲げ、誰もが快適に移動でき、安心して滞在できる、三鷹の魅力と個性を生かした質の高いまちづくりを進めることとしています。



三鷹駅南口西側中央地区共同ビルの「トリコナ」

#### ◆南北の軸性の強い市街地形成

三鷹駅前地区は、南北に長い短冊状の街区構成で、南北に強い軸性を持っています。

南北の主要な通りは、中央通りと三鷹通りであり、中央通りは、三鷹駅南口の駅前広場から連雀通りの間で完結しており、回遊性が少ないことが特徴です。



南北に強い軸性を持つ中央通り

一方、三鷹通りは、武蔵野市と調布市を結ぶ広域道路として、三鷹駅、芸術文化センター及び市民センターの3つの都市拠点をつなぐ重要な南北軸です。

東西の道路は、幅員が狭く、直進する道路が少ないことが課題となっています。

道路延長の推移

	平成26年度	令和5年度
道路延長 (都道と市道)	290,906m	295,138m

(出典：三鷹市資料)

## ◆東西・南北軸から 45 度傾斜したさくら通り

品川用水跡のさくら通りは、東西・南北の道路網にあってほぼ 45 度傾斜し、緩やかに湾曲する形状が特徴となっています。中央通りとの特徴的な交差点は、駅前地区の商業地域の中心と言える場所です。



中央通りとさくら通りの交差点

## ◆駅前から風の散歩道へと続く文化の景観

三鷹駅前地区は、玉川上水に沿って「三鷹の森ジブリ美術館」に続く「風の散歩道」があります。沿道近傍には「山本有三記念館」などの「歴史・文化の景観」を構成する要素が多く見られます。



紅葉の美しい風の散歩道

## 【商店街のにぎわい】

## ◆地域の交流の拠点としての商店街

地域の商店街は、近隣の買い回りの場としてだけでなく、コミュニティ創出の拠点として、交流やにぎわいの景観をつくり出しています。



山中通りの商店街

## ◆街道沿いに連なる商店街

連雀通り商店街は、連雀通りの拡幅に伴い、ガイドラインを策定し商店街の活性化に向けて、まちづくりを進めています。連雀通り沿いに路線型に位置する商店街として、にぎわいの景観をつくっています。



連雀通りの商店街

◆三鷹台駅前からつながる路線型商店街

三鷹台商店街は、三鷹台駅前から南側に延びる路線型の商店街です。神田川に向かって下る緩やかな傾斜と湾曲した街路が、特徴的な景観をつくっています。駅前の交通広場の整備にあわせて地区計画を定め、駅前のにぎわいづくりに取り組んでいます。



三鷹台駅前の商店街

【ものづくりの環境と住宅地の共存】

◆ものづくりの環境と住宅地が共存する景観

市内で操業中の小さな工場の多くは住宅地に隣接しており、ものづくりの環境と住宅地が共存しながら身近にある関係性を築いています。

戦前・戦後に創業した中小の工場が集積していますが、景気の低迷や住工混在による立地条件の圧迫などにより、移転や操業の中止を余儀なくされている状況も見られています。

また、下連雀地区や牟礼地区の住宅と工場が混在している地域では、事務所や工場の境界線に緑地などの緩衝帯が設けられるなど、ものづくりの環境と住宅地の共存する景観づくりが進められています。

日本無線株式会社三鷹製作所の跡地利用にあたっては、地域等と共存する工業・業務の活性化を図り、産業系の土地利用形態を集約・維持しながら、緑化推進等を図っています。



下連雀の特別都市型産業等育成地区



事務所や工場の大規模敷地の境界線に設けられた緑地

## ②にぎわいの景観づくりの課題

### 【にぎわいの骨格となる道路のまち並みづくりや緑のネットワーク化】

にぎわいの景観の主軸となる都市軸やサブ都市軸には、骨格となる道路にふさわしいまち並みづくりや樹木の適切な維持保全等による良好な緑景観の創出、河川軸の緑を南北につなぐ、緑のネットワークとしての機能が、求められます。



にぎわいの骨格となる東八道路

インターチェンジの整備が予定されている東八道路については、西部の野川公園と東部の玉川上水をつなぐ緑の連続空間の創出や、新たなにぎわいの場の創出により、ありきたりな幹線道路沿道の景観とならないよう誘導していく必要があります。

### 【拠点にふさわしい景観づくり】

まちづくりの拠点として位置付けられている三鷹駅前地区や市民センターは、それぞれの立地性や機能に適し、都市軸の結節点に位置するシンボル性を持つ、象徴的な景観づくりが求められます。

### 【三鷹駅前地区まちづくり基本構想区域での景観づくり】

三鷹駅前地区は、市の商業の中心地であるとともに、都市としての発展を目指す区域で、「三鷹市土地利用総合計画 2027」に位置付けられ、市内で唯一総合設計制度等の活用により、高度利用を図ることが可能となっています。

一方、当該区域内には、玉川上水をはじめ、品川用水の形状を残すさくら通りなど、緑と水や歴史的な資源も多く見られます。

こうしたことから、区域内での事業にあたっては、高度利用により、広場やオープンスペース等の計画的な配置を進め、回遊性のある市街地の整備を図るとともに、「緑と水の公園都市」の玄関口として“百年の森”構想の実現を目指し、段階的に緑化を推進して緑あふれるまちづくりを推進していく必要があります。

### 【商店街のにぎわいあるまち並みづくり】

連雀通りなどでは、都市計画道路等の事業が進められていますが、地域に根ざした路線型商店街として、にぎわいあるまち並みづくりが求められます。まちが大きく変わる際には、景観資源として商店街を残すためにも、既存のまちを生かした形で発展を目指すことが求められます。

また、商店街は、まちづくりにおける1つのステークホルダーとして、住民や来街者などの多様な主体との連携により、商店街ごとの特色を生かしたにぎわいの創出が求められています。

### 【ものづくりの環境と住宅地が調和したまち並みづくり】

大規模な工場や施設の敷地の境界部分には、緩衝帯としての緑地を設けるなど、周囲の住環境に配慮したまち並みづくりが求められます。

また、工場の用途転換によるマンション建設などの際にも、ものづくりの環境へ配慮し、住工が共存したまち並みづくりを進めることが求められています。

## (5) コミュニティ

コミュニティの景観は、良好な住宅地のまち並み、地域の憩いの場及びコミュニティのシンボルやランドマークなど、人々が三鷹の原風景を感じる場所や空間により、構成されています。

### ①コミュニティの景観の特性

三鷹らしいコミュニティの景観は、多くの市民が緑豊かな環境の中、いきいきと暮らす住宅地のまち並みで見られます。

また、校歌に唄われた情景、ランドマークとなる大樹及び地域の憩いの場など、地域が大事に育ててきた人々の心に残る風景があります。

- 良好な住宅地のまち並み
- 地域の憩いの場、コミュニティのシンボルやランドマーク
- 生活の中の心象風景

### 【良好な住宅地のまち並み】

#### ◆安全・安心にいきいきと暮らす住宅地のまち並み

住宅都市である三鷹市は、市内の多くが、一般的な住宅地で構成されています。

地域での人のつながりを基本に美しく清潔な住環境を維持・創出し、安全・安心に生活できる環境が整うことにより、一人ひとりがいきいきと輝くことができます。



良好な住環境が保全されている  
閑静な住宅地

#### ◆身近な緑を感じる住宅地の生け垣や庭

身近な緑を感じる住宅地のまち並みは、道路に面する生け垣や庭の緑によりつくられています。

通りに面して広い庭を設けている住宅地では、生け垣とその奥にみえる庭木によ

り、道行く人に奥行きのある緑を提供しています。

一方、通りに北側で接していたり、敷地一杯に建物を建てている場合でも、狭い植栽スペースやわずかな緑を境界に設けることにより、緑を感じさせる例を見ることができます。

### 【地域の憩いの場、コミュニティのシンボルやランドマーク】

#### ◆地域の憩いの場となる公園の情景

コミュニティの憩いの場として、公園は大切な場所です。市が整備した大規模な公園だけでなく、所有者により無償で開放された雑木林やマンションの脇につくられた公園など、地域には、大小さまざまな公園があります。

大きな広場のある公園では、ボール遊びなどをする子どもたちやこれを眺めてくつろぐ大人たちの憩いの場を見ることができます。

開放された雑木林公園では、斜面地に植えられたコナラやクヌギなどの樹々で遊ぶ子どもたちやベンチで樹々を眺める大人たちの憩いの場を見ることができます。

マンションの脇などにつくられた小さな公園では、近所の子どもたちや大人が集まり、遊んだりする姿を見ることができます。



地域の憩いの場となっている  
牟礼下本宿児童遊園

#### ◆人への思いやりが感じられる風景

道路沿いでは、バス停前に面するマンションの一部をセットバックしてベンチを設けたり、道路に面して植栽の空間を設けるなど、人への思いやりが感じられる風景に出会うことができます。

## ◆コミュニティのシンボルやランドマーク

公益施設は、コミュニティの核となる地域の景観づくりの先導的役割を担っています。

小中学校やコミュニティ・センターなどの施設の周辺では、桜並木が多く見られ、地域のシンボルとなっています。特に小中学校は、地域子どもたちや地域で育った方にとってのランドマークとして、永く人々の心の中に思い出として残り続けます。

また、並木や花壇が整備された生活道路も、地域のシンボルとなっています。

## 【生活の中の心象風景】

## ◆校歌に唄われたコミュニティの象徴

学園歌や小中学校の校歌には、コミュニティの象徴が唄われています。

全市的に校歌に唄われている「キーワード」を追うと、自然の景観を唄っているものが多く見られます。三鷹の景観の背景となる「大地」、「大空」、「雲」などを唄っている校歌や身近な自然として、季節感のある修飾語を添えて「みどり」、「花」及び



土蔵の残る坂道の景観

「鳥」などを唄っている校歌も多くあります。地名としては、「武蔵野」が多くの学校で唄われています。また、具体的な対象として、「富士」を唄っている学校や国立天文台のある三鷹市らしく「星」を唄っている学校も数多くあります。

校歌に唄われるこれらのキーワードから、武蔵野台地の広い空を背景に、季節感豊かな動植物に囲まれた風景が、三鷹の象徴的な心象風景の一つと考えることができそうです。また、遠くに見える富士の山や国立天文台も、人々にとって心象風景の代表となっているようです。

◆屋敷林や大樹、雑木林など地域の緑のランドマーク

屋敷林や大樹、雑木林などは、人々が手を加えながら、コミュニティの中で育ててきた地域のランドマークです。

屋敷林は、特に牟礼地区や北野地区に多く残っており、農地と一体となった農のある風景を形成しています。社寺の境内や街道沿い、屋敷や農地の一角には、いまでも大樹が残っており、地域の中のシンボルとなっています。

昔は薪などをとるのが目的だった雑木林は、現在は公園として無償で開放されているところも多く、地域の方が集まる憩いの風景となっています。



北野地区のけやき並木

◆地域の歴史を今に伝える古民家や社寺

地域には、古民家や社寺など、地域の歴史を今に伝える景観が残っています。

古民家の景観は、大沢地区に見られる水車小屋や人見街道、連雀通り沿いに見られる農家の土蔵として残っています。いずれも農のある風景と深い関わりのあるものです。

社寺については、各地域にゆかりのものがありますが、特に人見街道、連雀通り沿いに多く残っています。街道の辻（交差点）に小さな神社が残っているところもあり、まちの成り立ちとも関わりの深い景観となっています。

◆水路の面影を残す暗渠や遊歩道

暗渠となった水路の上を通る湾曲した線形や谷地形などの通りの特徴は、昔の面影を今に伝えています。中川や中仙川は遊歩道として整備されており、ゆっくり歩いて景観を楽しむことができる散歩道となっています。

**◆まちの形成の面影を残す短冊状の地割り**

人見街道や連雀通り沿道では、間口が狭く、奥行きのある短冊状に地割りが残っているところがあり、細長く続く農地の景観にその面影が残っています。



上連雀地区の短冊状の農地

**②コミュニティの景観づくりの課題****【良好な住環境の保全と創出】**

市民生活の根本となる住環境は、市民一人ひとりが、人生をいきいきと過ごすために最も大切にしたい景観の一つです。

良好な住環境の保全と創出にあたっては、市民同士の多様なつながりが非常に重要になります。

行政による誘導施策に加え、さまざまなコミュニティを核にした地域でのまちづくりの取り組みを、より一層推進することが求められます。

**【コミュニティ住区を中心とした身近な景観づくり】**

身近なコミュニティの景観は、地域社会の中で育てていくものです。そのため、地域のまちづくりを進める町会・自治会や住民協議会をはじめ、さまざまなコミュニティの役割が重要となります。

また、地形や自然、都市基盤など地域を形成する要素や地域特性の共通面などからコミュニティ住区ごとに課題を検討する必要があります。

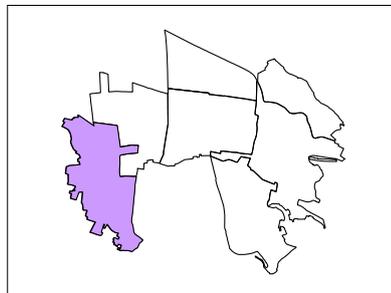
**【空き家の増加による地域コミュニティの衰退】**

少子高齢化の進行により、今後は市内でも特定空家等の増加が想定されます。そのため、市と所有者等と専門家団体が連携・協力し良好な住環境と地域コミュニティを確保していくことが求められています。

## 2 住区別の景観の特性と課題

### (1) 大沢住区

国分寺崖線や野川の豊かな緑と水に恵まれた大沢住区は、湧水がたくさん出るところから「大沢」と称するようになったとされています。大沢住区の市街地は、崖線上の大規模な緑地のまわりに広がるように発展してきた歴史があります。広大な緑地や水車小屋など、貴重な自然環境や文化遺産が残されているとともに、国立天文台や国際基督教大学などが立地し、文化の薫りも漂う住区です。



小中学校の校歌には、「水鳥」、「深き沢」、「野の川」など、国分寺崖線の景観を思わせる歌詞や「木立」、「芽立ち」、「紫草の香り」など、草木の景観を表現した歌詞が多く見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
おおさわ学園	・緑あふれる大沢	・水辺にかがやく 螢たち	・野川のせせらぎ
羽沢小学校	・雲白く ・空 ・水鳥	・深き沢 ・みどり	・武蔵野の木立 ・野の川
大沢台小学校	・澄みわたる多摩 の空 ・春の鳥 ・富士	・芽立ち ・木々の葉 ・風おどり	・むさし野 ・冬の花 ・きらめく星座
第七中学校	・若草	・水鳥	・紫草の香り

## ①大沢住区の景観の特性

## 自然

## ◆国分寺崖線の緑と水を感じる景観

国分寺崖線の緑や野川の清流は、三鷹を代表する自然です。起伏に富む地形と豊かな植生が一体となり、市内でも他に類を見ない、壮大な自然が展開しています。富士山への眺望点や湧水も多く存在します。

## 農

## ◆大規模な緑地の間を補完する農地

大沢住区の農地は、国分寺崖線の斜面緑地や国立天文台、国際基督教大学などの大規模な緑地の間に広がっており、緑をつなげています。



大沢地区の農地

## ◆受け継がれる農のある風景

湧水や野川の清流により育まれたわさび田や水田が見られるのは、市内でも大沢住区だけで、特にわさび田は都内でも珍しい景観です。

また、住宅地の中には、大沢雑木林公園など、保存樹林に指定されている雑木林が、公園として残されているところもあります。周囲の住宅地の庭の緑、生け垣の緑と連坦して、貴重な緑をつくりだしています。

## ◆市民農園

農業として営まれている農地だけでなく、大沢市民農園では、市民が土に触れ合いながら農に対する理解を深める場を提供しています。このように、市民が関わる農のある風景も見ることができます。

## 歴史・文化

### ◆武蔵野の面影の残る人見街道

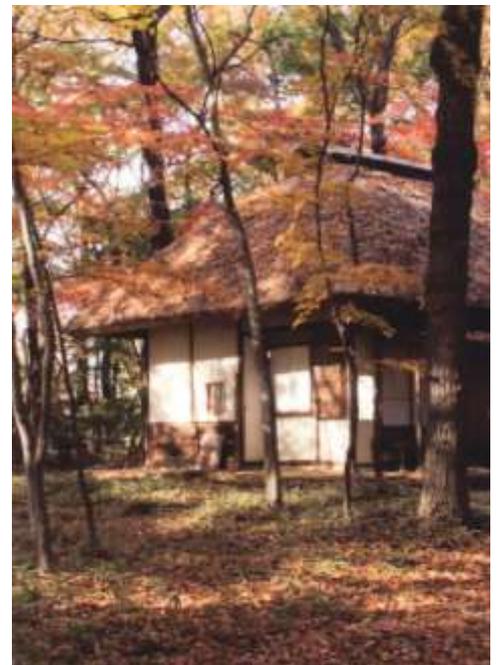
人見街道沿いには、農家の屋敷林の名残を感じるケヤキ並木が残っており、屋敷や土蔵なども見ることができます。

また、沿道には社寺も多く、近藤勇の墓のある「龍源寺」、「大沢八幡神社」及び「二子塚神社」などが接しています。

### ◆歴史・文化的建造物や桜並木などの見られる研究・教育機関

国分寺崖線上には、「国立天文台」、「国際基督教大学」、「ルーテル学院大学」及び「東京神学大学」など、大規模な研究・教育機関の敷地が存在します。これらは、大規模な緑地であるとともに、国立天文台の旧官舎を利用した「星と森と絵本の家」、国際基督教大学の敷地内にあり昭和初期に別荘として建てられた「泰山荘」及び村野藤吾設計の「ルーテル学院大学の礼拝堂」など、歴史・文化的に価値のある建造物が、多く存在しています。

また、国際基督教大学の桜並木など、地域の人々に愛されている多くの景観資源が存在します。



国際基督教大学の敷地内に残る泰山荘

### ◆武蔵野地域の水車経営農家やわさび栽培農家が残る貴重な景観

「新車（しんぐるま）」と呼ばれる峯岸家の水車は、文化5（1808）年頃



大沢の里水車経営農家

創設され、多機能性を持つ両袖型の大型水車で、規模・形式ともに武蔵野地域を代表する営業用水車です。昭和 43(1968)年頃に水車の稼働は停止しましたが、水車とともに、母屋・カッテ・土蔵・物置などの建物や水車用用水路跡なども現存しています。



大沢の里古民家

また、大沢の里古民家は、明治 35(1902)年に創設され、わさび栽培や養蚕を行っていた典型的な四つ間取りの農家です。昭和 40 年代にわさびの出荷となりましたが、現在はわさびの保全活動に取り組んでおり、古民家からわさび田を見ることができます。100 年以上前から同じ場所にあり続ける貴重な景観が存在します。

#### ◆国立東京大学馬術場

野川近くに位置する国立東京大学馬術場は、大沢風致地区内に位置しています。馬術部の練習場として昭和 40 年に整備され、閑静で自然豊かな場所となっています。

### にぎわい

#### ◆大規模な緑地と一体となった緑豊かな天文台通り

天文台通りは、国立天文台や国際基督教大学と接しており、自然や歴史・文化の景観との連続性を形成するうえで、重要な幹線道路です。街路樹や植栽帯が設けられており、沿道の自然や歴史・文化の景観との調和が図られています。



緑地帯や大規模敷地の接する天文台通り

また、国立天文台付近では、天文台通りは谷線を通っており、擁壁が設けられているところも多いですが、擁壁には、緑化が施されるなど、配慮がされています。



緑地帯や大規模敷地の接する天文台通り

#### ◆大沢グラウンド通りの桜並木

大沢グラウンド通りは、桜並木が整備されており、春には、桜の景観を楽しむことができます。

また、近くには、水路跡が帯状の緑をつくっています。

#### ◆東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、西部の野川公園と東部の玉川上水をつなぎ、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

### コミュニティ

#### ◆大規模な緑地のまわりに広がる住宅地

国分寺崖線上の大規模な緑地のまわりに広がる住宅地の多くは、斜面に立地しており、地形の起伏と豊かな緑のある住宅地のまち並みが広がっています。

#### ◆野川公園、武蔵野の森公園などの大規模な公園

国際基督教大学のゴルフ場が前身の野川公園では、長年育まれた樹々を見ることができます。また、非常に大きな木の揃う桜並木も存在します。

武蔵野の森公園は、調布市にも跨る都立公園です。調布飛行場を望むことのできる開放的で緑豊かな空間が広がっています。



調布飛行場を見渡せる武蔵野の森公園

## ◆緑豊かな住宅地として計画された大沢三丁目

「大沢三丁目環境緑地整備地区地区計画」は、計画的に開発された大沢三丁目の住宅地に都市計画決定されています。道路と民地との境界部分が緑化され、緑被率の高い住宅地のまち並みがつくられています。



大沢三丁目の住宅地入口のさくらの杜公園

## ②大沢住区の景観の課題

## 【豊かな自然環境の保全とまち並みの調和】

国分寺崖線の豊かな自然の保全や周辺の住宅地のまち並みと、農地の調和が求められています。

## 【富士山等への眺望の保全】

第七中学校付近の階段など、国分寺崖線上からの富士山への眺望の保全が求められています。国分寺崖線下の建築物等の形態・意匠の配慮や周辺自治体との広域連携が必要です。

## 【古民家などの景観資源の保全と育成】

貴重な古民家などの歴史・文化的資源を保全するとともに、適切な活用を図り、人が関わる景観として育成していくことが、求められています。

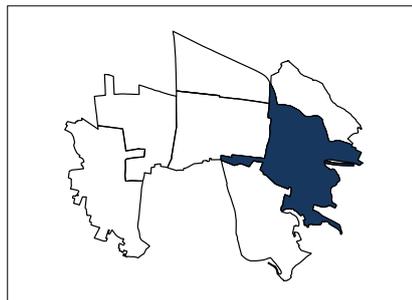
## 【国立天文台周辺地域のまちづくり】

天文台敷地北側ゾーンの土地利用転換を契機とした地域の共有地「おおさわ commons」の創出では、周辺の樹木と調和した施設や適切な維持管理により保全された都市の里山づくりを計画しています。

羽沢小学校等の跡地利用の検討においては、周辺の居住環境や景観と調和した良好な市街地環境を形成する必要があります。

## (2) 東部住区

東部住区は、牟礼地区と北野地区の全域、新川地区の一部で構成された住区です。牟礼の里付近の標高が市内の最高点となっており、見晴らしの良い起伏のある農地が玉川上水と一体に広がっています。北野地区の広大な大地には、農地や屋敷林、雑木林が残っており、武蔵野の面影が感じられます。



一方、「東京外かく環状道路中央ジャンクション（仮称）」の整備など、大きな景観の変化が予想される住区でもあります。

小学校の校歌には、「土の匂い」、「くろ土かおる」及び「大地の香り」など、農のある風景を思わせる歌詞や「けやきの緑」、「三鷹の杜」など、屋敷林や鎮守の森を思わせる歌詞が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹の森学園	・玉川のきらめく水 ・カワセミ ・牟礼の丘	・たなびく雲 ・キジバト	・のぼる朝日 ・ハヤブサ
東三鷹学園	・若葉 ・三鷹の杜	・けやきの空青 ・風	・草のかおり ・土の匂い
高山小学校	・丘	・けやきの緑	
北野小学校	・むさし野 ・くろ土かおる	・風と花 ・富士が嶺	・しら雲ながる ・鳥と星
第一小学校	・風 ・鳥	・のびる芽 ・竹	・春の日 ・空
第三中学校	・若みどり ・風 ・武蔵野野辺	・朝やけの彩る光 ・大空 ・そびえる富士	・武蔵野 ・大地の香り
第六中学校	・富士が嶺	・けやきの梢	・木の間の陽ざし

## ① 東部住区の景観の特性

## 自然

## ◆ 樹々の緑が豊かな玉川上水

東部住区の北東の端を流れている玉川上水は、樹々の緑が豊かで、地域の人々の散歩コースなどになっています。

## 農

## ◆ 牟礼地区の農地

牟礼の里に代表される牟礼地区の農地は、玉川上水、連雀通り及び人見街道などの歴史ある軸線の周囲に農地、屋敷及び屋敷林がまとまりのある農のある風景を形成しています。



牟礼地区の農地と屋敷

## ◆ 北野地区の農地

広大な平地に広がる北野地区の農地は、北野公園などの雑木林と一体となって景観を形成しています。

また、北野ハピネスセンター前のケヤキ並木など、屋敷林の面影を感じる景観も残っています。



北野地区の農地

## 歴史・文化

## ◆ 古道の趣を残す人見街道と連雀通り

人見街道や連雀通り沿いには、社寺、屋敷及び雑木林が残り、農をなりわいとしていた歴史を感じる景観資源が残っています。街道自身も湾曲しており、古道の趣を残しています。

◆牟礼たんぼと武蔵野の面影

現在の三鷹台団地の付近には、かなりの広さ(12~20町歩)の「牟礼たんぼ」があり、玉川上水の良い水のおかげで、質の良い米が多くとれたようです。

約300年間耕作された牟礼たんぼは、昭和35年に埋め立てられ、後に三鷹台団地ができました。

なお、建て替えられた三鷹台団地では、「ビオトープ」が整備されるなど、武蔵野の面影を残す景観づくりが行われています。



三鷹台団地のビオトープ

にぎわい

◆東西都市軸である東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、西部の野川公園と東部の玉川上水をつなぎ、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。東側の交通開放が完了し、周辺には農のある風景も広がっています。

コミュニティ

◆集合住宅団地

牟礼団地周辺には、成長した桜の木や弘済園通りの桜並木などが見られ、地域の人々が愛着を感じています。



都営牟礼六丁目アパート北側の桜並木

## ◆草花香る花と緑の広場

道路の事業に伴い暫定的に整備され、開放されている「花と緑の広場」は、創り上げられた公園ではなく、みんなの手で創っていくという点が特徴です。ボランティア花壇やボランティアによる庭づくり、種まきから行う花畑など、市民が花や緑に触れ合いながら楽しむことのできる広場となっています。

## ◆中川遊歩道

中川遊歩道は、暗渠になっている中川の上に整備された遊歩道です。北野二丁目付近では、周囲に広がる農地と一体となった景観をつくりだしています。



農と一体となった中川遊歩道

## ②東部住区の景観の課題

## 【農地の減少】

徐々に減少している農地を守るため、営農環境の保全や農の継承が求められています。

また、北野地区における「東京外かく環状道路中央ジャンクション(仮称)」の事



蓋かけ上部空間とその周辺地域(イメージ)

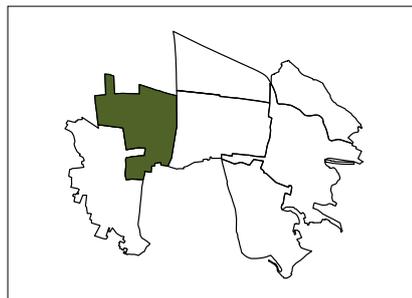
業区域約19haにおいては、約6haの農地が失われてしまいました。そのため、ジャンクション蓋かけ上部空間等とその周辺地域を新たなふれあいの里である「北野の里(仮称)」と位置付け、緑と農のある景観づくりを進めています。

## 【集合住宅団地の建替えなどに合わせた景観づくり】

大規模集合住宅団地の建て替えや道路の新設・拡幅などに伴う建築物の建て替えの際に、周辺の緑や農、まち並みに配慮した景観づくりを進めていくことが求められています。

### (3) 西部住区

西部住区は、住宅地の中に武蔵野の面影を感じる農地、屋敷林、雑木林及び社寺などが見られる住区です。連雀通りや人見街道の沿道には、ケヤキ並木や土蔵など、昔を思わせる景観が垣間見られます。井口小学校の「シンボルツリー」であるサワラの木は、貧しかった昔に、この地域で風呂桶をつくるために育てられていました。現在も直売所など農に触れる環境が残る一方、マンション化などによる農地の減少や調布保谷線の整備など、少しずつ景観の変化が進んでいる住区です。



小中学校の校歌には、井口地区のシンボルである「さわらの木」がよく出てきます。ほかにも「狩場の空」など、江戸時代からの歴史を感じる歌詞を見ることができます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
にしみたか学園	・さくら	・さわら	・あかまつ
第二小学校	・朝風かおる ・武蔵野 ・そよぐみどり	・富士が嶺 ・狩場の空 ・きおえる鷹	・八千草 ・花
井口小学校	・花	・さわらの木	・風
第二中学校	・富士 ・林 ・武蔵野	・大空 ・小鳥	・風 ・朝日

#### ①西部住区の景観の特性

##### 自然

##### ◆大沢青少年広場やなんじゃもんじゃの森

西部住区には、なんじゃもんじゃの森など、住宅地の中で個性ある公園・緑地が存在しています。



なんじゃもんじゃの森

## 農

## ◆連雀通りを中心に開墾された新田の面影

南北に長い地割に残る農地は、連雀通りを中心に開墾された新田の面影を感じることができます。

また、井口小学校の校庭には、「シンボルツリー」としてサワラの木が植えられており、開墾の歴史を感じる景観が大切に育まれています。



井口地区の農地

## ◆農作物の直売所

住宅地の中に農地が点在している西部住区では、直売所などが数多く設置されており、農を身近に感じることができます。

## 歴史・文化

## ◆連雀通りと人見街道

連雀通りや人見街道沿いには、大鷲神社などの社寺や屋敷林の面影を感じるケヤキ並木など、歴史を感じる景観資源が残されています。



大鷲神社

## ◆社寺や文化財

御嶽神社、井口八幡神社などの社寺や鷹場標石など、市街化が進む中でも歴史の面影を感じることのできる景観資源が点在しています。

また、西部住区には、井口四丁目の連雀通りの脇にある馬頭観音や井口一丁目の庚申塔など、人々に愛されている石造物が現存しています。



井口八幡神社

## にぎわい

### ◆武蔵境通り、天文台通り及びかえで通り

武蔵境通り、天文台通り及びかえで通りは、南北の幹線道路として、街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

また、かえで通りには、通りの名称の由来である、かえで並木が続いています。



にぎわいのある東八道路

### ◆東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

## コミュニティ

### ◆初期の住宅地開発の歴史を感じる東野住宅

東野住宅は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に建設された4つの住宅地の内の一つです。東野公園を中心に商店街や児童館などがあり、ふれあいのあるコミュニティを形成しています。



初期の住宅地開発の面影を残す東野住宅

### ◆地域のシンボルである大銀杏や並木

広々とした空間を持つ深大寺公園の大銀杏は、地域のシンボルとして、親しまれています。雌木なのでギンナンもたくさんなります。

また、人見街道のケヤキ並木や第二中学校入口の桜並木も、地域のシンボルとして、親しまれています。



地域のシンボルである  
深大寺公園の大銀杏

## ②西部住区の景観の課題

### 【農地のマンション化】

農地は、相続などで徐々にマンションなどに変わってきています。マンションなどを建設する際も、周辺の農地やまち並みに配慮することで、西部住区の良い景観を保全、育成していく工夫が求められています。

### 【農地や社寺、屋敷林と調和したまち並みづくり】

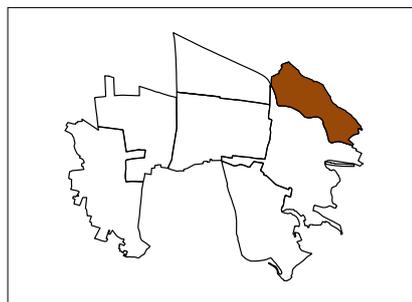
農地や屋敷林と調和したまち並みづくりのため、住宅地開発などの際に、既存樹木を残すなど、地域固有の景観を守り、育てる配慮が求められています。

### 【井口特設グラウンド周辺地区のまちづくり】

「井口特設グラウンド土地利用構想」に基づき、井口特設グラウンドを利活用し、一時避難場所となる恒久的なグラウンドの整備を行うとともに、市内医療体制の拡充を図るため医療機関の誘致が求められています。

## (4) 井の頭住区

井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水に囲まれ、緑や水に恵まれた井の頭住区は、江戸時代、徳川家光が鷹狩りにこの地に立ち寄り、湧水がほとばしるように出ているのを見て「井の頭」と命名したと伝えられています。



住区内には、京王井の頭線が神田川に沿って走り、都心への通勤等の利便性が高い閑静な住宅地であり、多くの文化財も現存しています。

三鷹台駅前や井の頭公園駅前、井の頭公園通りでは、路線型の商店街がにぎわいのある景観をつくっています。

小中学校の校歌には、「玉川のきらめく水」、「カワセミ」及び「水美しく」など、玉川上水、神田川及び井の頭池を思わせる歌詞が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹の森学園	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉川のきらめく水</li> <li>カワセミ</li> <li>牟礼の丘</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たなびく雲</li> <li>キジバト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>のぼる朝日</li> <li>ハヤブサ</li> </ul>
第五小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵野</li> <li>朝日かがやき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>風かおる</li> <li>緑の丘ベ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水美しく</li> <li>鳥うたう</li> </ul>

### ①井の頭住区の景観の特性

#### 自然

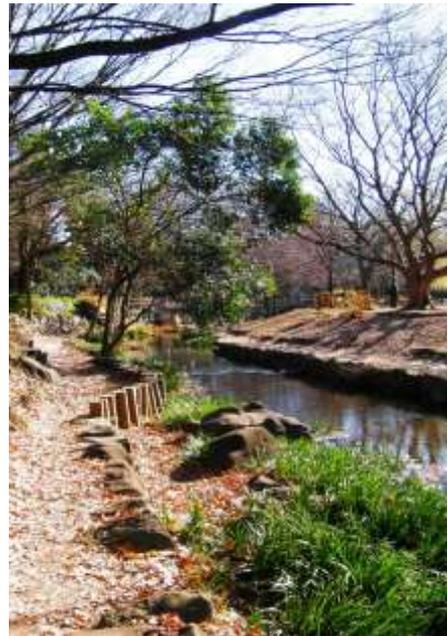
##### ◆井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水

井の頭住区は、井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水の緑の拠点や軸に囲まれています。神田川の水源地は井の頭池にあり、井の頭公園駅付近には、親水空間も形成されています。

また、河川に沿ってつくられた遊歩道に面した住宅では、生け垣などの緑化の配慮が施されているものが多く、緑と水を感じる景観が形成されています。

さらに、周辺の住宅地から神田川に向かっては緩やかな傾斜があり、神田川の谷地形を感じることができます。

玉川上水は、井の頭恩賜公園西園を抜けて、井の頭住区の南西端を流れています。神田川と同様に両側は遊歩道が整備されており、緑に囲まれた土の道は、周辺の人々の散歩道となっています。



神田川周辺の緑

## 農

### ◆玉川上水の周辺に残る農地や竹林

利便性の高さから住宅地が広がる井の頭住区ですが、玉川上水の周辺には、農地や竹林が残っています。地形に沿って流れる玉川上水や水路跡に挟まれ、不整形な農地や竹林が点在しています。



井の頭地区のまちなかの農地

## 歴史・文化

### ◆井の頭住区の文化財

井の頭住区には、都指定の文化財となっている井の頭池（神田上水源地）、井の頭池遺跡群をはじめ、市指定の石造物、国登録文化財の住宅など、数多くの文化財が残っています。



住宅地に残る登録文化財の住宅

## にぎわい

### ◆三鷹台駅前、井の頭公園駅前及び井の頭公園通りの商店街

三鷹台駅前では、三鷹台駅前通りの整備に伴う商店街の景観づくりが進められています。歩行者中心の道路空間となるよう駅前広場の一部を「歩行者利便増進道路(ほこみち)」に指定して、イベント等を開催することで、さらなる地域の活性化を図ります。

また、井の頭公園駅前及び井の頭公園通りでは、商店街のにぎわいある景観が続いています。



三鷹台駅前広場における盆踊り大会



神田川こいのぼり祭り

## コミュニティ

### ◆利便性の高い、閑静な住宅地

京王井の頭線沿線に位置し、利便性の高い井の頭住区は、閑静な住宅地のまち並みが広がっています。生け垣や庭先の植栽などにより、緑豊かなまち並みが形成されている箇所が多く見られます。

### ◆農業用水路跡

農業用水路跡は、遊歩道として整備され、中には裏路地が趣のある景観を形成しているところがあります。

### ◆井の頭公園駅前の桜並木など、地域のシンボルとなっている樹木

井の頭公園駅前の桜並木や三鷹台児童公園の桜など、地域のシンボルとなる樹木が見られます。

## ②井の頭住区の景観の課題

### 【商店街の景観づくり】

道路の整備などに合わせて、地域コミュニティの拠点でもある商店街のにぎわいのある景観づくりが求められています。

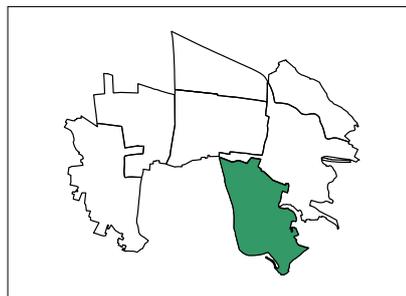
### 【神田川、玉川上水と調和した低層のまち並みづくり】

神田川や玉川上水の緑に囲まれた閑静な低層の住宅地や井の頭公園駅付近などの1区画ごとの敷地が広く、ゆとりのあるまち並みを維持するとともに、個々の住宅での生け垣の整備や緑化などにより、緑豊かな景観を創出していくことが求められています。

### (5) 新川中原住区

新川中原住区は、新川地区の大部分と中原地区の全域からなる住区です。

新川地区は、仙川を中心に緩やかな起伏を持ち、周辺には農地などが残っています。丸池周辺は市民参加により、丸池の里として整備されており、市民に親しまれる場所となっています。また、杏林大学や新川・島屋敷通り団地など、大規模な土地利用が見られることも特徴です。



中原地区は、崖線を含む起伏のある地区です。住宅地が全体的に広がり、崖線には斜面緑地が残っています。また、崖線下には、暗渠となった中仙川の上に遊歩道が整備されています。

小中学校の校歌には、「仙川」などの景観資源や近年まで武蔵野を代表する花とされ、古今和歌集にも詠まれた「紫草」も唄われています。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
鷹南学園	・太陽 ・青空	・ゆるる緑 ・風	・ゆたかにあふれる水 ・大空はばたく鷹
中原小学校	・武蔵野 ・花	・西空 ・富士の嶺	・中嶋の杜 ・風薫る
東台小学校	・樟の芽ぶき ・光	・仙川	・山
第五中学校	・三鷹 ・野川のひかり	・むらさきぐさ	・花

## ① 新川中原住区の景観の特性

## 自然

## ◆仙川を中心につながる緑と水

仙川を中心に、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」から農業公園、仙川平和公園、新川丸池公園及び丸池の里、新川天神山青少年広場、仙川下流までの連続した大きな緑と水のつながりを「緑と水の連続空間」として位置づけています。特に、丸池の里は、地域の人々が管理に関わり、自然に触れ合える場所となっています。



三鷹中央防災公園・元気創造プラザ



多くの緑地、公園が接する仙川の景観

## ◆中仙川遊歩道と国分寺崖線

暗渠となった中仙川は野川の支流で、中原地区においてなだらかな崖線を形成しています。住宅市街地化が進んでいますが、斜面緑地もわずかに残っています。

## 農

## ◆新川・中原地区の農地

新川・中原地区は、南側の崖線を除き、平坦な地形が広がっています。農地は、大学や新川・島屋敷通り団地など、大規模な敷地を除く平地に広がっています。



中原地区の農地と屋敷

## ◆まるいけたんぼ

丸池の里の一角を利用した「まるいけたんぼ」では、小学生が地域のボランティアの方々を介して田植えや稲刈りを体験する姿を見ることができます。



まるいけたんぼ

## 歴史・文化

### ◆地域の人々に親しまれてきた勝淵神社の鎮守の森

勝淵神社は、地域の人々に昔から雨乞いの水神社「明神様」と呼ばれて親しまれてきた神社であるとともに、鎮守の森として次世代に継承すべき緑地も残っています。



勝淵神社

## にぎわい

### ◆大学や公共施設、集合住宅団地

吉祥寺通りの西側には、杏林大学や都立三鷹中等教育学校などの教育施設や研究機関などが集まっており、大規模な敷地を生かし、通りに面して緑化などの配慮が施された景観が見られます。



杏林大学病院

### ◆幹線道路の街路樹や緑地帯

東八道路や吉祥寺通り沿いには街路樹が整備され、緑を感じる幹線道路がつけられています。

また、中央自動車道の高架の脇には、緑地帯が設けられています。

## コミュニティ

### ◆起伏のある住宅地を通る中仙川遊歩道

中仙川遊歩道は、中仙川が暗渠になった上に整備されています。起伏のある住宅地の中で谷線を通っており、単独で歩行者向けの通路となっている場所と道路の歩道部分となっている場所があります。



雑木林が残る中原雑木林公園

また、周囲には、中原雑木林公園や中原緑地などの雑木林が残っています。ともに斜面地にあり、良好な眺望が開けています。

#### ◆新川・島屋敷通り団地

戦後、急激な宅地化の進んだ新川中原住区の象徴であった、新川・島屋敷通り団地は、高齢化の進行など社会状況に対応するため、地域ケア拠点としての整備が進められました。

#### ◆崖線の緑と坂のまち並み

中仙川に沿った崖線周辺では、地形にそった不整形な街区に住宅地が広がっており、緑と坂のまち並みが見られます。

## ②新川中原住区の景観の課題

### 【緑と水に調和した配慮】

仙川を軸に連続する丸池の里などの公園・緑地の周辺には、農地や住宅地が広がっており、道路境界部の緑化などにより、緑と水に調和した配慮が求められています。

### 【緑豊かな住宅地のまち並みづくり】

中仙川に沿った崖線の周辺では、比較的密集した住宅地が広がっています。緑や坂の多いまち並みに調和するよう、敷地境界や擁壁の緑化などによる緑豊かな住宅地のまち並みづくりが求められています。

### 【農地や雑木林、斜面緑地の保全】

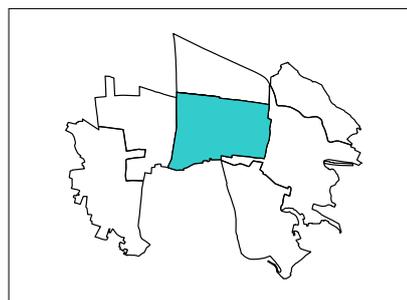
農地や雑木林は徐々に減少しており、斜面緑地も人の手を加えながらの維持が必要です。自然や農のある風景を象徴するこれらの資源を守り、育てていくことが求められています。

### 【環境センター跡地周辺のまちづくり】

環境センター跡地周辺においては、環境センターの解体、古着等のストックヤード及びスポーツ施設の整備を含めた跡地利活用に向けた検討が必要です。

## (6) 連雀住区

連雀住区は、市の中心部に位置し、市役所をはじめ公益施設が集約しています。交通の便も良く、工場や企業など、多くの産業が立地しており、住宅と工場、企業が共存しています。



連雀通り沿いには、古くから路線型の商店街が発達し、市の中心部として、産業や商業、住宅など様々な活気ある営みが混在しています。

また、芸術文化の拠点として、芸術文化センターも立地しています。

小中学校の校歌には、「桜並木道」や「けやきの幹」など、地域に象徴的に見られる並木などが唄われています。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
連雀学園	・大きな空 ・夕焼け空	・星	・桜並木道
三鷹中央学園	・風 ・大空	・花咲き ・風薫る	・太陽
第六小学校	・緑 ・むさしの ・雲あおく	・風そよぐ ・空	・鷹 ・花
南浦小学校	・大空 ・鳥	・ただよう雲	・木々の葉
第七小学校	・武蔵野 ・みどり ・白雲	・空 ・朝富士	・さくらの花 ・けやきの幹
第一中学校	・富士 ・むさしの	・麦の丘 ・雲	・土の香り ・大地

## ①連雀住区の景観の特性

## 自然

## ◆まちなかを通る仙川の流れ

人見街道以北を流れる仙川は、水量もほとんどなく、川幅も狭い三面張りの河川です。また、工場が建ち並ぶ中心部では暗渠となっています。

## 農

## ◆まちなかに残る農地

上連雀地区や下連雀地区の仙川周辺には、比較的多くの農地が残っており、まちなかの貴重な緑となっています。



連雀地区のまちなかの農地

## 歴史・文化

## ◆まちなかを通る人見街道

連雀住区の人見街道は、沿道に市民センターなどを配し、現在も人々の生活に欠かせない道となっています。

## ◆歴史とにぎわいを感じる連雀通り

連雀通りは、三鷹通りより東側では、商店街が見られ、西側には歴史的な面影を感じる屋敷林や並木、土蔵などが残っています。

三鷹通りとの交差点付近には、八幡大神社と禅林寺が、連雀通りに面して立地しています。



地域の鎮守が祀られた八幡大神社

また、連雀通りの脇には、庚申塔や地藏菩薩・廻国塔など地域の人々に愛されている石造物が現存しています。

◆芸術文化センター周辺

芸術文化センターと南側の連雀中央公園は、一体的な整備が行われています。市の芸術文化の拠点として、周辺の住環境と調和した景観がつけられています。

にぎわい

◆元気な地域の商店街

連雀通り、山中通り及び仲町通りなどでは、元気な路線型の商店街のまち並みが続き、にぎわいのある景観をつくりだしています。

◆桜のトンネル三鷹通り

市民センター付近の三鷹通りは、桜並木がトンネル状に街路を覆い、四季の変化を楽しめる景観をつくっています。

◆マンション化の進む吉祥寺通り

吉祥寺通り沿道は、マンション化が進んでいます。マンションは大きくセットバックしているものが多く、快適な歩行空間と緑豊かな植栽の整備された沿道の景観がつけられています。一方、連雀通りとの交差点より北側の沿道には、昭和の雰囲気を残すレトロな商店街も残っています。

◆市民が集い、憩う市民センター

市民センター周辺には、市役所や三鷹中央防災公園・元気創造プラザをはじめ多くの公益施設が立地しています。庁舎の建替えについては、市民が親しめ交流できる緑豊かな空間の創出、交通ネットワークの拠点となる機能など、地域のまちづくりや周辺環境の向上に資する整備をめざし検討していくこととしています。

◆住工共存のまち並み

下連雀地区の工場とマンションなどが混在するエリアでは、敷地の境界部分に緑地の緩衝帯を設けるなど、住工が共存するための様々な配慮が施されています。



緩衝緑地などが設けられた  
住工共存の景観

## コミュニティ

### ◆初期の住宅開発の歴史を感じる山中住宅

山中住宅は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に、住宅営団によって建設された4つの住宅地の内の一つです。現在も所々に昭和初期に建設された住宅地の面影を感じることができます。

### ◆連雀中央公園などのコミュニティの中の公園

連雀中央公園や下連雀鷹の子児童公園など、市街化の進む連雀住区では、公園が貴重な緑や憩いの場となっています。



地域の憩いの場になっている連雀中央公園

## ②連雀住区の景観の課題

### 【商店街の景観づくり】

連雀通りの整備などに伴い、にぎわいのある商店街の景観づくりが求められています。

### 【住工共存、土地利用転換に伴う景観づくり】

住工共存のまち並みにおいては、提供公園や緩衝緑地帯の整備など、マンションや工場を建設の際に周囲のまち並みに配慮することが求められています。

### 【農地の保全】

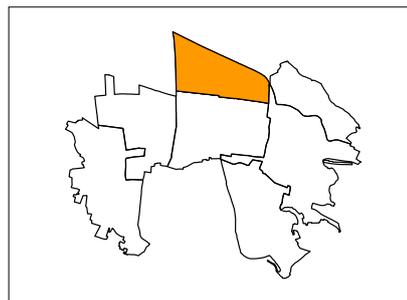
営農できる環境の整備だけでなく、市街地の貴重な緑でもあるまちなかの農地を保全していくことが、求められています。

### 【拠点となる市民センターや芸術文化センターの景観づくり】

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」が整備された市民センターや芸術文化センター周辺は、市民が集い、憩いの場の充実が求められています。

## (7) 三鷹駅周辺住区

三鷹駅周辺住区は、市の玄関口である三鷹駅があり、本市で最も人口密度が高い住区です。市の商業の中心地ですが、それと同時に地域の大部分は密集した住宅地であり、商業と住宅が混在した土地利用となっています。



三鷹駅南口周辺の約 17ha の区域は、再開発を積極的に進めていく区域に定められています。

三鷹駅前地区や風の散歩道には、文学者ゆかりの場所も多く残されています。

小中学校の校歌では、「玉の泉」という表現や「小みちの花」という市街地らしいまちなかの小さな緑を唄った内容が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹中央学園	・風 ・大空	・花咲き ・風薫る	・太陽
連雀学園	・大きな空 ・夕焼け空	・星	・桜並木道
第三小学校	・空 ・薫る双葉	・若鷹 ・武蔵ひろ原	・風
第四小学校	・青い空 ・雲間 ・富士	・子鳩 ・玉の泉 ・水かがみ	・小みちの花 ・野に山に
第四中学校	・富士 ・空 ・緑	・若木 ・あの森この丘 ・つるばら	・多摩の山脈 ・武蔵野

### ①三鷹駅周辺住区の景観の特性

#### 自然

##### ◆樹々の緑豊かな玉川上水

三鷹駅周辺住区の北端には、樹々の緑が豊かな玉川上水が流れています。三鷹駅

の北側では、沿道は土の散策路となっており、三鷹駅の南側は、風の散歩道として整備されています。三鷹駅付近では暗渠となっています。また、三鷹駅周辺、風の散歩道、井の頭の森、三鷹の森ジブリ美術館までの連続した大きな緑と水のつながりを「緑と水の連続空間」として位置づけています。

#### ◆親水空間が整備されている仙川

三鷹駅周辺住区を流れる仙川は、水量もほとんどなく、川幅も狭い三面張りの河川ですが、水源の森あけぼのふれあい公園では、親水空間が整備されています。

### 農

#### ◆上連雀地区の農地

上連雀地区の玉川上水の周辺などには、比較的多くの農地が残っており、まちなかの貴重な緑となっています。



©Museo d'Arte Ghibli

三鷹の森ジブリ美術館

### 歴史・文化

#### ◆風の散歩道と三鷹の森ジブリ美術館

三鷹駅から井の頭恩賜公園西園までの玉川上水に沿って、風の散歩道が整備されています。「三鷹の森ジブリ美術館」へ向かう動線として、統一された景観づくりが行われています。



太宰治ゆかりの三鷹こ線人道橋

#### ◆文学者ゆかりの景観

山本有三の住んだ洋風建築である「山本有三記念館」や太宰治ゆかりのさるすべりの木が移植された「みたか井心亭」など、三鷹駅周辺住区には、多くの文学者ゆかりの景観が残されています。

太宰治ゆかりの三鷹こ線人道橋では、行きかう電車を眺める子ども連れの姿も見られましたが、老朽化のため解体・撤去し、一部を保存する予定です。

◆市街地を斜めに通る品川用水跡

品川用水跡であるさくら通りは、中心市街地を斜めに通り、中央通りとの交差点などにおいて鋭角な敷地をつくり、市街地の景観に変化を与えています。

にぎわい

◆にぎわいの骨格となる三鷹駅前地区

三鷹駅前地区は、南北に長い短冊状の街区構成で、南北に強い軸性を持っています。南北の主要な通りは、中央通りと三鷹通りです。中央通りは、三鷹駅南口駅前広場と連雀通りを結んでおり、夏の風物詩である「三鷹阿波おどり」の会場になっています。一方、三鷹通りは、武蔵野市と調布市を結ぶ広域道路であり、三鷹駅や芸術文化センターを結ぶ南北軸となっています。

三鷹駅南口広場は、玉川上水と一体的に整備され、玉川上水がそのモニュメントとなっており、「緑と水の公園都市」の玄関口を形成しています。

また、三鷹駅前地区の約 17ha は、令和4年度に策定された「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」の対象区域に位置付けられるとともに、現在は三鷹産業プラザの機能強化や区域内幹線道路の整備などが進められ、魅力的な買い物空間やにぎわいのあるまち並みの形成を目指しています。

コミュニティ

◆初期の住宅地開発の歴史を感じる曙住宅と共栄会

曙住宅と共栄会は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に、住宅営団によって建設された住宅地です。現在も所々で昭和初期に建設された住宅地の面影を感じることができ、曙住宅の市道第99号線桜並木は、地域の人々に愛される景観資源として育まれています。

◆初期の住宅地開発の歴史を感じる南井の頭  
田園住宅

南井の頭田園住宅地は、大正12(1923)年の関東大震災に心動かされた大地主の渡



緑豊かな南井の頭田園住宅のまち並み

辺萬助によって、災害に強い住宅地をつくろうと計画されたものです。敷地規模が大きく、庭木などにより、緑豊かな住宅地のまち並みが、現在も維持されています。

#### ◆堀合遊歩道

堀合遊歩道は、昭和 26(1951)年に開業した国鉄の武蔵野競技場線の跡が緑道になったものです。JR 三鷹駅車庫から玉川上水まで続く緑道は、桜を主とした並木道となっています。



堀合遊歩道

## ②三鷹駅周辺住区の景観の課題

### 【再開発等による三鷹駅前地区の景観づくり】

三鷹駅前地区については、令和4年度に策定された「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」において、“子どもの森”をコンセプトとした三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業により広場空間の整備や緑化の推進を図り、市全体を「緑のまち」にする“百年の森”構想の実現への第一歩とするとしています。

そのため、市民活動への支援や重点的に緑化を進めるエリア、路線を設定するなど、市が積極的に関わることで、三鷹駅前地区を「緑と水の公園都市」にふさわしい、緑あふれるまち並みにしていくことが必要です。

### 【文化の景観の保全と育成】

風の散歩道など、芸術や文学者ゆかりの地を訪ねる観光ルートの魅力を高めるために、その周辺では、文化・観光の機能を持った土地利用や観光ルート周辺にふさわしい景観の誘導が求められます。